

九州厚生局長 殿



学校法人 久留米大学
理事長 前川

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	119.48 人
--------	----------

(注)前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

単位 人

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	69	570	509.7	看護業務補助者	25	診療エックス線技師	0
歯科医師	0	19	11.0	理学療法士	10	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師 78
薬剤師	56	1	56.6	作業療法士	7		衛生検査技師 0
保健師			0.0	視能訓練士	3		その他 0
助産師	36		36.0	義肢装具士	0		あん摩マッサージ指圧師 0
看護師	959	1	959.8	臨床工学技士	14	医療社会事業従事者	5
准看護師	6		6.0	栄養士	1	その他の技術員	11
歯科衛生士	3	1	3.5	歯科技工士	1	事務職員	90
管理栄養士	13		13.0	診療放射線技師	51	その他の職員	56

(注)1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を少数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	893.2 人	19.1 人	912.3 人
1日当たり平均外来患者数	1,814.0 人	95.0 人	1,909.0 人
1日当たり平均調剤数			1,316.3 剤

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	4人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類III度又は同分類IV度のものに限る。)に係るものに限る。)	4人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	0人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	8人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1)「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	レット症候群の病態解明・治療のための血漿中グレリン測定	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 血漿中のグレリン濃度を測定し、臨床症状との関連を評価する。将来の診断の為の生物学的マーカーの可能性を検討する。			
医療技術名	注意欠陥多動性障害(ADHD)に対するサマートリートメントプログラムによる包括的治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ADHD児童への医学・心理・教育専門家チームによる夏季集中包括的治療プログラムで、本人への薬物療法、行動療法および保護者へのペアレントトレーニングを行う。米国NIMH臨床研究でも採用されている科学的治療法			
医療技術名	神経性食欲不振症の病態・治療効果解明のための光ポトグラフィー、SPECT、唾液コルチゾール測定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 光トポグラフィー、SPECTによる脳機能障害部位および唾液コルチゾールによる生体リズム、ストレスの客観的評価と治療による改善を評価するシステム			
医療技術名	アスペルガー症候群の眼球探索運動検査による診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 新しい評価法である眼球探索運動検査を小児疾患への応用、特にアスペルガー症候群の診断に関する診断システムの確立を目指している			
医療技術名	先天代謝異常症の遺伝子診断(OTC欠損症に限る)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 2例のOTC欠損症患者につき遺伝子診断を実施した。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症(MELAS)に対するL-アルギニン治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要:ミトコンドリア脳筋症の一病型であり脳卒中様発作を主徴とする難病MELASの治療については、世界的に見ても有効な治療法は見いだされていない。古賀靖敏を主任研究者とするL-アルギニン療法は、MELASの急性期治療および発作寛解期の脳卒中様発作の予防治療として注目されており、現在、医師主導治験として日本でPhaseIIIが進められている。この治療法は、臨床研究として、久留米大学で医師主導治験以前に行っており、現在もその治療を継続している。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症の遺伝子診断	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 臨床的にミトコンドリア脳筋症を疑われた症例のミトコンドリアDNAの検索依頼が全国の臨床施設からなされ、久留米大学医学部小児科の研究室でDNAを分離し、16.5kbのミトコンドリアDNAの全塩基解析を行った。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	172 人	・膿疱性乾癬	11 人
・多発性硬化症	101 人	・広範脊柱管狭窄症	14 人
・重症筋無力症	272 人	・原発性胆汁性肝硬変	1,651 人
・全身性エリテマトーデス	2,472 人	・重症急性膵炎	1,370 人
・スモン	1 人	・特発性大腿骨頭壊死症	150 人
・再生不良性貧血	695 人	・混合性結合組織病	368 人
・サルコイドーシス	392 人	・原発性免疫不全症候群	826 人
・筋萎縮性側索硬化症	34 人	・特発性間質性肺炎	1,306 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	579 人	・網膜色素変性症	228 人
・特発性血小板減少性紫斑病	35 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	48 人	・肺動脈性肺高血圧症	282 人
・潰瘍性大腸炎	335 人	・神経線維腫症	92 人
・大動脈炎症候群	81 人	・亜急性硬化性全脳炎	3 人
・ビュルガー病	179 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5 人
・天疱瘡	271 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5 人
・脊髄小脳変性症	96 人	・ライソゾーム病	17 人
・クローン病	123 人	・副腎白質ジストロフィー	3 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	9 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	34 人
・悪性関節リウマチ	2,314 人	・脊髄性筋萎縮症	4 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	613 人	・球脊髄性筋萎縮症	3 人
・アミロイドーシス	84 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16 人
・後縦靭帯骨化症	370 人	・肥大型心筋症	311 人
・ハンチントン病	4 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	48 人	・ミトコンドリア病	73 人
・ウェゲナー肉芽腫症	173 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	139 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	44 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	17 人	・黄色靭帯骨化症	63 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	11 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	1,024 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・超音波骨折治療法(開放骨折、粉碎骨折に対して骨折観血的手術が行われた場合)	・
・胎児心超音波検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1回/週
部 検 の 状 況	部検症例数 46 例 / 部検率 8.96%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
※別紙1の通り				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 116

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
※別紙2の通り			

計 114

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
起動炎症モニタリングの一般臨床応用化:新しい喘息管理目標の確立に関する研究	相澤 久道	呼吸器・神経・膠原病内科	3,000,000	(補委)	厚生労働省
重症・難治性喘息の病因・病態の解明に関する研究	相澤 久道	呼吸器・神経・膠原病内科	800,000	(補委)	厚生労働省
呼吸不全に関する調査研究	相澤 久道	呼吸器・神経・膠原病内科	1,200,000	(補委)	厚生労働省
疾病の診断基準等作成のための奨励研究:アトピー性脊髄炎診断基準の作成とそれに基づいた臨床疫学調査の実施	谷脇 考恭	呼吸器・神経・膠原病内科	500,000	(補委)	厚生労働省
脊髄小脳変性症の経頭蓋磁気刺激治療法-機能的MRIによる改良	谷脇 考恭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,040,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
喘息死、COPD及びマウスモデルにおける炎症細胞とサイトカインに関する研究	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,950,000	(補委)	独立行政法人 日本学術振興会
新規動物モデルを用いたCOPDと併存症の研究	松永 和子	呼吸器・神経・膠原病内科	2,210,000	(補委)	文部科学省
炎症性サイトカインおよび酸化ストレス制御によるCOPD治療法に関する研究	木下 隆	呼吸器・神経・膠原病内科	2,080,000	(補委)	文部科学省
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	佐田 通夫	消化器内科	7,488,000	(補委)	厚生労働省
肝炎・肝硬変に対する抗ウイルス剤以外の治療法に関する研究	井出 達也	消化器内科	300,000	(補委)	厚生労働省
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	佐田 通夫	消化器内科	2,700,000	(補委)	厚生労働省
肝がんの新規治療法に関する研究	佐田 通夫	消化器内科	2,000,000	(補委)	厚生労働省
肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究	鳥村 拓司	消化器内科	2,000,000	(補委)	厚生労働省
酸化アルブミン制御による肝発癌抑制効果の検討	佐田 通夫	消化器内科	1,950,000	(補委)	文部科学省
肝再生における上皮間葉転換(EMT)の病態生理学的な意味	桑原 礼一郎	消化器内科	1,950,000	(補委)	文部科学省
炎症性腸疾患におけるTLIAの役割について	竹田津 英稔	消化器内科	2,470,000	(補委)	文部科学省
C型肝炎ウイルスIRES領域の遺伝子解析による治療効果予測因子の同定	緒方 啓	消化器内科	1,040,000	(補委)	文部科学省
抗線維化遺伝子修飾血管内皮前駆細胞を用いた肝臓再生療法の開発	中村 徹	消化器内科	1,430,000	(補委)	文部科学省
骨髄由来前駆細胞をベクターとし血管新生抑制を目的とした肝細胞癌への遺伝子	鳥村 拓司	消化器内科	1,040,000	(補委)	文部科学省
IL-6 trans-signalingを標的としたcolitic cancerの予防	光山 慶一	消化器内科	1,100,000	(補委)	文部科学省
合成メチル化カテキンによる抗腫瘍効果のメカニズムの解析及び臨床応用への基礎研究	橋本 修	消化器内科	2,080,000	(補委)	文部科学省
抗原提示細胞内のMIFを標的とするDDS技術を用いた炎症性腸炎治療薬の開発	光山 慶一	消化器内科	8,000,000	(補委)	(独)医薬基盤研究所
糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法開発のための評価法の開発	奥田誠也 (研究分担)	腎臓内科	800,000	(補委)	厚生労働省
大動脈瘤の革新的な治療法開発:組織修復を制御するマイクロRNAの同定と機能解析	青木浩樹	循環器病研究所	3,200,000	(補委)	文部科学省:科学研究費補助金
安静時心拍数は、将来のメタボリック症候群進展の危険因子となり得るか?	足達 寿	地域医療連携講座	1,000,000	(補委)	文部科学省:科学研究費補助金
生活習慣病における運動と栄養指導の酸化ストレス改善効果	吉田典子	健康スポーツ科学センター	1,000,000	(補委)	文部科学省:科学研究費補助金
心不全の新しい発症機構に関する研究:シグナル制御因子SOCS3の役割	安川秀雄	心臓・血管内科	1,300,000	(補委)	文部科学省:科学研究費補助金

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
口腔内細菌をターゲットとした急性冠症候群の新しい治療法開発	香月与志夫	心臓・血管内科	1,560,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
マスターサイトカインを標的とした細胞老化制御と革新的な大動脈瘤治療法の開発	青木浩樹	循環器病研究所	13,500,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
慢性腎不全における心血管病発症の分子機構:血管内皮機能の視点から	今泉 勉	心臓・血管内科	6,240,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
心筋-血管クロストークの解析:前高血圧期への介入による高血圧発症予防の分子機序	甲斐久史	心臓・血管内科	1,300,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
尿中ナトリウム排泄とメタボリック症候群進展の疫学的考察	平井祐治	心臓・血管内科	1,600,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
マイクロアレイデータを用いた癌の対話型予後予測・診断システム	宮本貴宣	循環器病研究所	884,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
色素上皮由来因子による新しい外傷性脳浮腫治療薬の開発	陣内裕子	リハビリテーション部	2,080,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
高血圧性心リモデリングの機序をin vivoで心筋構成細胞別に解析する試み	池田理望	心臓・血管内科	1,700,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
エンドセリン-1と高血圧・腎不全・及び動脈硬化発症・進展との関与に関する疫学研究	熊谷俊一	心臓・血管内科	1,400,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
内因性NO合成阻害物質を介する動脈管収縮の分子機構:遺伝子改変マウスを用	梶本英美	循環器病研究所	1,600,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
安静時心拍数がメタボリック症候群を進展させるかの疫学的研究	佐藤 晃	高度救命救急センター	1,900,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
内皮由来マイクロパーティクルと内皮障害~血中バイオマーカーによる内皮機能評価法~	姉川敬裕	心臓・血管内科	2,210,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
熱ショック蛋白と動脈硬化の関連を疫学的に解明する	村山恭子	心臓・血管内科	1,700,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
メタボリック症候群に関連する血清vaspinの疫学的重要性	江崎英司	心臓・血管内科	1,900,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
新規色素上皮由来因子受容体を用いた閉塞性動脈硬化症の新たな治療戦略の開発	中村和生	心臓・血管内科	4,260,000	(補委) 文部科学省:科学研究費補助金
難治性心血管病の分子機序解明と新規治療法開発のための研究拠点形成	今泉 勉	心臓・血管内科	64,000,000	(補委) 文部科学省:私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
色素上皮由来因子受容体アゴニストの心血管代謝病への応用	山岸昌一	糖尿病性血管合併症病態・治療学講	30,000,000	(補委) 文部科学省:私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
特発性心筋症に関する調査研究班	今泉 勉(分担)	心臓・血管内科	1,100,000	(補委) 厚生労働省:科学研究費補助金
リコイルおよびショートニングしないステントの形状の開発	甲斐久史	心臓・血管内科	700,000	(補委) 石橋学術振興財団:石橋学術振興基金
内因性NO合成阻害物質を介する動脈管収縮の分子機構:遺伝子改変マウスを用いた検討	梶本英美	循環器病研究所	700,000	(補委) 石橋学術振興財団:石橋学術振興基金
一般健常者集団において末梢血血小板由来および内皮由来マイクロパーティクルは心血管疾患リスクとなりうるか? -田主丸循環器住民検診における検討-	甲斐久史	心臓・血管内科	1,000,000	(補委) 千代田健康開発事業団:社会構成事業助成金制度
大動脈瘤病態における炎症シグナルの解明と診断および治療応用	青木浩樹	循環器病研究所	1,950,000	(補委) 国立循環器病研究センター:循環器病研究委託事業
大動脈瘤の病態解明と無侵襲治療の臨床試験 ~小径瘤を生活習慣病と捉える新たな取組み	青木浩樹	循環器病研究所	500,000	(補委) 国立国際医療研究センター:国際医療研究委託事業
大動脈瘤低侵襲治療のための革新的ハイブリッドデバイスシステムの開発	青木浩樹(分担)	循環器病研究所	25,000,000	(補委) 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構:若手研究 Grant

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
JAKチロシンキナーゼ制御によるアレルギー・炎症性疾患治療の新戦略	安川秀雄	心臓・血管内科	4,000,000	補委 独立行政法人医薬基盤研究所:保健医療分野における基礎研究推進事業
血清DHEAS濃度高値は男性では長寿の予知因子である:27年間の疫学的検討	榎本美佳	心臓・血管内科	500,000	補委 小林孫兵衛記念医学振興財団
Ghrelin(グレリン)とインスリン抵抗性およびHDLコレステロールとの関連について	南條泰輝	心臓・血管内科	500,000	補委 健康管理事業団
Vaspinは、メタボリック症候群における進展抑制ならびに改善をもたらす因子となるか?	江崎英司	心臓・血管内科	1,000,000	補委 聖ルカ・ライフサイエンス研究所
同種末梢血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	長藤 宏司	血液・腫瘍内科	700,000	補委 厚生労働省
再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	長藤 宏司	血液・腫瘍内科	1,000,000	補委 厚生労働省
高校生および勤労者の睡眠不足による過眠に対する午睡導入の実証的研究	内村直尚	精神神経科	¥300,000	補委 文部科学省
夜型両親の遅寝改善にみる乳幼児の生活リズム安定と心身の健康を導く研究	内村直尚	精神神経科	¥30,000	補委 文部科学省
精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と睡眠医療の適正化に関する研究	内村直尚	精神神経科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
精神科救急医療、特に身体疾患や認知症疾患合併例の対応に関する研究	内村直尚	精神神経科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
夜型社会における子どもの睡眠リズムによる心身発達の前方視的研究と介入法	内村直尚	精神神経科	¥150,000	補委 厚生労働省
自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究	内村直尚	精神神経科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
健康づくりのための休養や睡眠の在り方に関する研究	内村直尚	精神神経科	¥600,000	補委 厚生労働省
血小板低値例のインターフェロン治療法への確立を目指した基礎および臨床的研究	内村直尚	精神神経科	¥700,000	補委 厚生労働省
睡眠医療における医療機関連携ガイドラインの有効性検証に関する研究	内村直尚	精神神経科	¥600,000	補委 厚生労働省
心理教育を受ける統合失調症患者の服薬アドヒアランスおよび症状管理成果指標の開発	前田正治	精神神経科	¥200,000	補委 文部科学省
大規模災害や犯罪被害等による精神疾患の実態把握と介入手法の開発に関する研究	前田正治	精神神経科	¥450,000	補委 厚生労働省
統合失調症の治療の標準化と普及に関する研究	内野敏郎	精神神経科	¥400,000	補委 厚生労働省
包括的な生物学的指標を用いた発達障害児の病態解明・治療法に関する研究	松石 豊次郎	小児科	1,690,000	補委 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と患者数の実態調査に関する研究	松石 豊次郎	小児科	1,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	芳野 信	小児科	2,000,000	補委 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
MELASに対するL-アルギニン治療(AJA030/AJA001)の治験研究	古賀 靖敏	小児科	64,283,000	補委 日本医師会治験促進センター(治験推進研究事業)
治験の実施に関する研究[L-アルギニン]	古賀 靖敏	小児科	1,400,000	補委 日本医師会治験促進センター(治験推進研究事業)
ミトコンドリア病の治療薬開発	古賀 靖敏	小児科	1,000,000	補委 国立精神・神経センター(厚生労働省精神・神経委託費)
電子伝達系酵素アッセムブリーにおける核 およびミトコンドリア多型のシナジー効果	古賀 靖敏	小児科	600,000	補委 文部科学省科学研究費補助金萌芽研究

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
注意欠陥多動性障害児への夏期治療プログラムの効果に関する脳科学的検討	山下 裕史朗	小児科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)
発達障害の新しい診断・治療法の開発に関する研究	山下 裕史朗	小児科	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金奥山班
発達障害の神経科学的基盤の解明と革新的治療法開発に関する研究	山下 裕史朗	小児科	1,300,000	補委 精神・神経疾患研究委託費稲垣班
川崎病発症と冠動脈病変形成・進展における樹状細胞の役割の解明	須田憲治	小児科	1,560,000	補委 文部科学省研究費
川崎病血管炎は脳血管障害のリスク因子となりうるか？	家村素史	小児科	1,950,000	補委 文部科学省研究費
切除可能中等度進行食道癌の治療、食道切除か集学的化学療法か多施設研究	藤田博正	外科	3,640,000	補委 文部科学省
ヒト大腸癌の再発転移におけるclaudin-1の機能解析と治療戦略	衣笠哲史	外科	1,430,000	補委 文部科学省
癌化学療法と細胞免疫療法との相乗効果に関する研究	唐 宇飛	外科	1,560,000	補委 文部科学省
「難治性疾患脊柱靭帯骨化症の治療標的分子の発見と画期的診断・治療法の開発」	永田見生	整形外科	10,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服事業
「骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発」	永田見生	整形外科	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
腰痛の診断・治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」	永田見生	整形外科	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業
難病、頸椎後縦帯骨化症特異的タンパク質の発見とそのメカニズムの解明	永田見生	整形外科	910,000	補委 文部科学省研究費補助金
膝靭帯再建における正常の骨__靭帯移行部再現に必要な術式および生物活生物質の研究	副島 崇	整形外科	1,040,000	補委 文部科学省研究費補助金
ヒト骨転移特異的タンパク質の逆翻訳によるゲノム解析	津留美智代	整形外科	1,040,000	補委 文部科学省研究費補助金
多発性神経線維腫瘍発生メカニズムの検討	清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	650,000	補委 文部科学省
本人の音声記録による代用音声の開発と音声獲得	井上 要二郎	形成外科・顎顔面外科	400,000	補委 文部科学省
未だに未同定であるIEN型IgA天疱瘡と抗p200類天疱瘡の抗原解析	橋本 隆	皮膚科	5,980,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
角化細胞の分化におけるブラキン・ファミリー分子の関与：新たな癌治療への基礎的研究	辛島 正志	皮膚科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
表皮のリモデリングによる発癌抑制メカニズム	上田 明弘	皮膚科	2,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
難治性特定克服研究事業稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	橋本 隆 (分担研究)	皮膚科	2,500,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
皮膚難病の自己免疫水疱症の自己抗原のプロテオミクスによる同定と診断システムの確立	橋本 隆	皮膚科	2,300,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	嘉村 敏治	産婦人科	2,000,000	補委 厚生労働省
婦人科悪性腫瘍に対する新たな治療法の開発に関する研究	嘉村 敏治	産婦人科	1,200,000	補委 厚生労働省
進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究	嘉村 敏治	産婦人科	1,000,000	補委 厚生労働省
卵巣癌に対するpolysomal RNA vaccineの開発	津田 尚武	産婦人科	1,430,000	補委 文部科学省
早期の癌に対する標準的放射線治療方法の確立のための臨床試験	早瀬尚文 (研究分担)	放射線科	60,000	補委 文部科学省科学研究費補助金

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
食道癌のPET/CTによる治療効果判定の分子病理学的検討	石橋正敏 (研究代表)	放射線科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
STIR法、拡散強調画像併用MRIを用いた肺癌並びにリンパ節転移診断	藤本公則 (研究代表)	画像診断センター	1,560,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
IVRIにおける被曝低減に関する実践的研究	安陪等思 (研究代表)	画像診断センター	910,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
アスベスト曝露に伴う悪性胸膜中皮腫のPET/CTによる早期診断法の確立	倉田精二 (研究代表)	放射線科	650,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
放射線治療にビスフォスフォネート製剤を併用した基礎実験及び臨床応用の研究	江藤英博 (研究代表)	放射線科	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
マルトリンパ腫における末梢血腫瘍マーカーの検討	末藤大明 (研究代表)	放射線科	650,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
PET/CTと高分解能心臓CTでの不安定プラークの検出とサイトカインの関連	甲斐田勇人 (研究代表)	放射線科	1,430,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
HER2陽性乳癌における免疫学的解析—免疫学的治療戦略の有効性についての検討	関直子	歯科口腔医療センター	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費(基盤研究C)
フラボン誘導体Factor-Xの生物学的活性(抗腫瘍・抗ウイルス効果)の検討	青木将虎	歯科口腔医療センター	1,820,000	補委 文部科学省科学研究費(若手研究B)
口腔癌における癌抗原ペプチドを用いた個別的腫瘍抑制戦略	山手智津	歯科口腔医療センター	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費(若手研究B)
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及及び啓発に関する研究	坂本照夫	高度救命救急センター	250,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
ドクターヘリ、ドクターカーの実態を踏まえた搬送受け入れ基準ガイドラインに関する研究	坂本照夫	高度救命救急センター	2,400,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合には「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer chemotherapy and pharmacology	2009	Expression of ercc1 and class iii beta-tubulin in non-small cell lung cancer patients treated with a combination of cisplatin/docetaxel and concurrent thoracic irradiation.	Azuma K	呼吸器・神経・膠原病内科
Lung cancer (Amsterdam, Netherlands)	2009	Expression of ercc1 and class iii beta-tubulin in non-small cell lung cancer patients treated with carboplatin and paclitaxel.	Azuma K	呼吸器・神経・膠原病内科
Nihon Kokyuki Gakkai zasshi = the journal of the Japanese Respiratory Society	2009	a case of cushing syndrome presenting after pulmonary nocardiosis with pyothorax.	Hoshino T	呼吸器・神経・膠原病内科
American journal of respiratory cell and molecular biology	2009	Role of proinflammatory cytokines il-18 and il-1beta in bleomycin-induced lung injury in humans and mice.	Hoshino T	呼吸器・神経・膠原病内科
Allergol Int	2009	Pharmacological treatment in asthma and copd.	Hoshino T	呼吸器・神経・膠原病内科
Allergol Int	2009	Endogenous and exogenous thioredoxin 1 prevents goblet cell hyperplasia in a chronic antigen exposure asthma model.	Imaoka H	呼吸器・神経・膠原病内科
Internal medicine (Tokyo, Japan)	2009	High plasma brain natriuretic peptide levels in stable copd without pulmonary hypertension or cor pulmonale.	Inoue Y	呼吸器・神経・膠原病内科
Respirology (Carlton, Vic)	2009	Comparison of aspergillus galactomannan antigen testing with a new cut-off index and aspergillus precipitating antibody testing for the diagnosis of chronic pulmonary aspergillosis.	Kitasato Y	呼吸器・神経・膠原病内科
J Clin Neurosci	2009	Symmetrical brainstem encephalitis caused by herpes simplex virus.	Miura S	呼吸器・神経・膠原病内科
Clinical neurology and neurosurgery	2009	Expansion of the phenotypic spectrum of sca14 caused by the gly128asp mutation in prkcg.	Miura S	呼吸器・神経・膠原病内科
Clinical neurology and neurosurgery	2009	Machado-joseph disease/sca3 and myotonic dystrophy type 1 in a single patient.	Miura S	呼吸器・神経・膠原病内科
Journal of Clinical Neuroscience	2009	Parkinsonism and ataxia associated with an intracranial dural arteriovenous fistula presenting with heperintense basal ganglia in T1-weighted MRI	Miura S	呼吸器・神経・膠原病内科
Internal medicine (Tokyo, Japan)	2009	Correlation of decreased survival and il-18 in bone metastasis.	Okamoto M	呼吸器・神経・膠原病内科
Internal medicine (Tokyo, Japan)	2009	Validation of "Lung age" Measured by spirometry and handy electronic fev1/fev6 meter in pulmonary diseases.	Toda R	呼吸器・神経・膠原病内科
Internal medicine (Tokyo, Japan)	2009	Addison's disease induced by miliary tuberculosis and the administration of rifampicin.	Yokoyama T	呼吸器・神経・膠原病内科
Diagnostic and therapeutic endoscopy	2009	Medical thoracoscopy performed using a flexible bronchoscope inserted through a chest tube under local anesthesia.	Yokoyama T	呼吸器・神経・膠原病内科
Aliment Pharmacol Ther	2009.6	Safety of bisphosphonates in women of child bearing age: authours' reply	Keiichi Mitsuyama	消化器内科
Int J Mol Med	2009.7	Epigallocatechin-3-gallate improves nonalcoholic steatohepatitis model mice expressing nuclear sterol regulatory element binding protein-1c in adipose tissue	Takato Ueno	消化器内科
Dig Endosc	2009.7	Trans-gastric endoscopic drainage using a large balloon for pancreatic necrosis and abscess- Two case reports	Yoshinobu Okabe	消化器内科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Endoscopy	2010.1	Pneumomediastinum is a frequent but minor complication during esophageal endoscopic submucosal dissection	Yoshitaka Tamiya	消化器内科
Am J Pathol	2010.1	Pigment epithelium-derived factor inhibits lysosomal degradation of Bcl-xL and apoptosis in HepG2 cells	Takumi Kawaguchi	消化器内科
Gastrointest Endosc	2010.2	Autoimmune pancreatitis presenting with IgG4-positive multiple gastric polyps	Ryohei Kaji	消化器内科
Dig Dis Sci	2010.3	Mechanisms underlying the effects of leukocyte apheresis with a fiber filter in a rat model of	Hiroshi Yamasaki	消化器内科
Liver Int	2010.3	Association of exogenous insulin or sulphonylurea treatment with an increased incidence of hepatoma in patients with hepatitis C virus infection	Takumi Kawaguchi	消化器内科
Med Sci Monit	2009.10	Knowledge of Vibrio vulnificus infection in Japanese patients with liver diseases: A prospective multicenter study.	Yumiko Nagao	消化器内科
Med Sci Monit	2009.9	High incidence of multiple primary carcinomas in HCV-infected patients with oral squamous cell carcinoma.	Yumiko Nagao	消化器内科
Circ J	2009年9月	Increased P-selectin expression on platelets and decreased plasma thrombomodulin in patients after the Fontan procedure.	梶本英美	循環器病研究所
Clinical Cardiology	2009年9月	Low-density lipoprotein levels are one of the independent determinants of circulating levels of Advanced Glycation End Products (AGEs) in non-diabetic subjects.	山岸昌一	糖尿病性血管合併症病態・治療学講座
Clinical Cardiology	2009年9月	Decreased high-density lipoprotein cholesterol level is an independent correlate of circulating tumor necrosis factor- α in a general population.	山岸昌一	糖尿病性血管合併症病態・治療学講座
Hypertension	2009年10月	Exaggerated blood pressure variability superimposed on hypertension aggravates cardiac remodeling in rats via angiotensin II system-mediated chronic inflammation.	工藤博司	心臓・血管内科
Metabolism	2009年12月	Factors associated with serum high mobility group box 1 (HMGB1) levels in a general population.	深水亜子	心臓・血管内科
Nephrol Dial Transplant	2009.4	Involvement of asymmetric dimethylarginine(ADMA) in tubulointerstitial ischaemia in the early phase of diabetri nephropathy	Shibata R	腎臓内科
Nephrol Dial Transplant	2009	Administration of pigment epithelium-derived factor(PEDF) reduces proteinuria by suppressing decreased nephrin and increased VEGF expression in the glomeruli of adriamycin-injected rats	Fujimura T	腎臓内科
Life Science	2009	Involvement of asymmetric dimethylarginine(ADMA) in glomerlar capillary loss and sclerosis in arat model of chronic kidney disease(CKD)	Ueda S	腎臓内科
Current Drug Metabolism	2009	Clinical Utility of Acarbose,an α -Glucosidase Inhibitor in Cardiometabolic Disorders	Yamagishi S	糖尿病性血管合併症病態・治療学講座

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Hematology 89:452-459	2009	Characterization of the light chain-restricted clonal B cells in peripheral blood of HCV-positive patients	Korenori Ohtsubo	血液・腫瘍内科
cancer science 100(10) 1842-1847	2009.7	Prognostic impact of immunohistochemical biomarkers in diffuse large B-cell lymphoma in the rituximab era	Seki Ritsuko	血液・腫瘍内科
Pancreas 38(7):815-819	2009	Nonmyeloablative Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation as Immunotherapy for Pancreatic Cancer	Abe Y	血液・腫瘍内科
Int J Hematol. 91(2):257-266	2010.1	Rituximab in combination with CHOP chemotherapy for the treatment of diffuse large B cell lymphoma in Japan: a retrospective analysis of 1,057 cases from Kyushu Lymphoma Study Group.	Seki Ritsuko	血液・腫瘍内科
久留米医学会雑誌	2009.2.25	情動関連課題遂行中の脳血流の変動—多チャンネルNIRSを持ちいて	山本 篤	高次脳疾患研究所
臨床精神医学	2009.8.28	うつ病におけるfulvoxamine投与後の睡眠ポリグラフ所見と治療反応性予測	土生川光成	精神神経科
臨床精神医学	2009.9.28	非精神病性の衝動行為に対する心理教育的アプローチ	大江美佐里	精神神経科
臨床精神医学	2009.9.28	小児科との連携、小児科病棟に精神科医がいる意味について考える	向野美智子	精神神経科
Psychiatry and Clinical Neurosciences	2009.12	Adolescent vulnerability to PTSD and effects of community-based intervention: a longitudinal study among adolescent survivors of the Ehime Maru sea accident	Masaharu Maeda	精神神経科
Psychiatry and Clinical Neurosciences	2009.4	Chorea-acanthocytosis presenting with schizophrenia symptoms as first symptoms	Hidetaka Yamada	精神神経科
J Hum Genet	2010.1	Mutant alleles associated with late-onset ornithine transcarbamylase deficiency in male patients have recurrently arisen and have been retained in some populations.	Numata S	小児科
New York Academy of Science	2009	MELAS and L-arginine therapy.	Koga Y	小児科
Biochimica et Biophysica Acta	2009	Pyruvate therapy for Leigh syndrome due to cytochrome c oxidase deficiency.	Komaki H	小児科
Mitochondrion	2009	Extensive screening system using suspension array technology to detect mitochondrial DNA point mutations.	Nishigaki Y	小児科
臨床神経学Vol.48	2009	MELASに対するL-アルギニン療法	古賀 靖敏	小児科
ホルモンと臨床vol56	2009	MELASコホート調査にみる低身長の実態	古賀 靖敏	小児科
日本小児臨床薬理学会雑誌	2009	MELASに対するL-アルギニン、自主臨床試験から医師主導治験へ	古賀 靖敏	小児科
Hepatology Research	2010	Histological findings in the liver of patients with intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency	Kimura A	小児科
Journal of Gastroenterology and Hepatology	2009	SRD5B1 gene analysis needed for the accurate diagnosis of primary 3-oxo- Δ 4-steroid 5 β -reductase deficiency	Ueki I	小児科
Brain and Development	2010	Short-term effect of American summer treatment program for Japanese children with attention deficit hyperactivity disorder.	Yushiro Yamashita	小児科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Brain and Development	2010	Regional cerebral blood flow changes in early-onset anorexia nervosa before and after weight gain.	Hiroko Komatsu	小児科
臨床神経生理学	2010年4月	アスペルガー障害児と健常児における探索眼球運動の比較研究	江上 千代美	小児科
脳と発達	2010年4月	笑顔図の眼球探索運動から類推される対人的視覚認知機能の発達	江上 千代美	小児科
Hepatology Research	2010	Histological findings in the liver of patients with intrahepatic cholestasis caused by citrin	Kimura A	小児科
Journal of Gastroenterology and Hepatology	2009	SRD5B1 gene analysis needed for the accurate diagnosis of primary 3-oxo- Δ 4-steroid 5 β -reductase deficiency	Ueki I	小児科
Pediatrics International	2009 Aug	Extended-stay hospitalization for childhood asthma in Japan.	谷秀和	小児科
Pediatrics International	2009 Jan	Ghrelin and leptin modulate immunity and liver function in over weight children.	岡松由記	小児科
日本大腸肛門病会誌	2009.2	大腸癌の同時性・異時性、肝・肺に対する外科治療の成績と問題点	村上英嗣	外科
Anti cancer Research 29:2083-90	2009	Molecular Mechanism of Sequence-dependent Antitumor Effect of SN38 and 5Fluoro uracil Combined therapy against colon cancer cells	Shojiro Trigoe	外科
Cancer Letter 282:43-7	2009	Bystander effect from cytosine deaminase and uracil phosphoribosyl transferase gene in vitro	Toshiaki Tanaka	外科
日本消化器外科学会誌 42(10)1551-6	2009	Esophageal Gastrointestinal Stromal Tumor 食道粘膜下腫瘍13例におけるGISTの比率とその腫瘍核出術後の成績	西村 光平	外科
Disease of the colon & Rectum 52:1887-94	2009	Histopathologic Tumor Spread in Very low Rectal tumours treated with abdominoperineal resection	Kazuo Sirouzu	外科
日本消化器外科学会誌 (12)1755-61	2009	食道手術における結腸再建術に対する血管吻合付加の有用性	永野 剛志	外科
西日本脊椎研究会誌	2009	術中脊髄モニタリングにおける true positive例の神経学的予後と術中対応策の考察	山田 圭	整形外科
脊椎変形	2009	特発性側彎症手術における術中脊髄モニタリング 脊髄の解剖学的偏位と矯正操作による波形変化	山田 圭	整形外科
日本創外固定・骨延長学会雑誌	2009	不安定型骨盤輪骨折に対する創外固定使用例の検討	白濱正博	整形外科
整形外科と災害外科	2009	救命できなかった骨盤輪骨折症例の検討	白濱正博	整形外科
日本骨・関節感染症学会雑誌	2009	脊椎手術後深部感染例の検討—除圧術を行った腰部脊柱管狭窄症について—	佐藤公昭	整形外科
骨折	2009	Free-sole 下腿免荷歩行キャスト—若年者の下腿骨幹部骨折への応用—	後藤武史	整形外科
肩関節	2009	凍結肩由来肩甲上腕関節滑膜線維芽細胞へのヒアルロン酸の影響	白地 功	整形外科
Journal of Neurosurgery: Spine	2009	Effect of nonprotein bioactive agent on the reduction of cyclooxygenase-2 and tumor necrosis factor α in human intervertebral disc cells in vitro	Yoshida T	整形外科
脊髄機能診断学	2010	側彎症手術における術中脊髄モニタリング 脊椎・脊髄の解剖学的偏位と術中モニタリング波形の変化	脇田 瞳	整形外科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Plast. Reconstr. Surg. 123 (4): 1220-1228, 2009	2009年4月	New Method of Preparing a Pectoralis Major Myocutaneous Flap with a Skin Paddle that Includes the Third Intercostal Perforating Branch of the Internal Thoracic Artery	Hideaki Rikimaru	形成外科・顎顔面外科
Plast. Reconstr. Surg. 123 (6): 1724-1728, 2009	2009年6月	New Umbilicoplasty Procedure for Postoperative Umbilical Defect Using a Rabbit Head-Shaped Scar Flap with Bilateral Subcutaneous Pedicles	Koichi Watanabe	形成外科・顎顔面外科
Scand. J. Plast. Reconstr. Surg. Hand Surg. 43 (3): 142-147, 2009	2009年8月	V-Y fasciocutaneous flap of the medial thigh including the long saphenous vein for reconstruction of intrapelvic dead space	Toshihiko Yamauchi	形成外科・顎顔面外科
J. Craniofac. Surg. 20 (5): 1462-1467, 2009	2009年9月	Endoscopic Maxillary Sinus Lift Without Vestibular Mucosal Incision or Bone Graft	Kensuke Kiyokawa	形成外科・顎顔面外科
日本形成外科学会誌. 29(9): 526-533, 2009	2009年9月	広範囲腹壁癒痕ヘルニアに対する自家組織移植による再建—当科における治療戦略—	守永 圭吾	形成外科・顎顔面外科
日本頭蓋顎顔面外科学会誌. 25 (3): 242-249, 2009	2009年9月	眼球陥凹を伴う陳旧性眼窩骨折に対する肋軟骨チップ移植の有用性	西 由起子	形成外科・顎顔面外科
久留米医学会雑誌. 73 (1・2): 14-22, 2010	2010年2月	横軸型腹直筋皮弁 (TRAM flap) の三次元的血行形態の解剖学的研究と新しいAngiosomeの血行理論	古賀 憲幸	形成外科・顎顔面外科
J. Craniofac. Surg. 21 (2): 495-498, 2010	2010年3月	A New Therapeutic Strategy for Lengthening Severe Short Nose	Hideaki Rikimaru	形成外科・顎顔面外科
Proc Natl Acad Sci USA	2009 Feb 24.	Anti-laminin gamma-1 pemphigoid.	Dainichi T	皮膚科
J Dermatol Sci	2009 Mar 6.	A Japanese family with dominant pretibial dystrophic epidermolysis bullosa: Identification of a new glycine substitution in the triple-helical collagenous domain of type VII collagen.	Hamada T	皮膚科
J Am Acad Dermatol	2009 Aug 13.	A case of epidermolysis bullosa acquisita with clinical features of Brunsting-Perry pemphigoid showing an excellent response to colchicines.	Tanaka N	皮膚科
Rev Allergy Immunol.	2009 Jun 27	High-Dose Intravenous Immunoglobulin (IVIg) Therapy in Autoimmune Skin Blistering Diseases.	Ishii N,	皮膚科
Arch Dermatol Res.	2009 Jun 23	Autoantibodies to sweat glands detected by different methods in serum and in tissue from patients affected by a new variant of endemic pemphigus foliaceus.	Abreu-Velez AM,	皮膚科
J Cutan Pathol.	2009 Jun 13	Broad histopathologic patterns of non-glabrous skin and glabrous skin from patients with a new variant of endemic pemphigus foliaceus—part 1.	Howard MS	皮膚科
J Dermatol Sci	2009 Apr 13	The compound heterozygote for new/recurrent COL7A1 mutations in a Japanese patient with bullous dermolysis of the newborn.	Hashikawa K	皮膚科
Dermatol Online J.	2009 Jul 15	A case of bullous disease limited to the skin illustrates the spectrum of neoplasia induced autoimmunity.	Grover RK	皮膚科
Clin Chim Acta.	2009 Sep 6.	Development of ELISA for the specific determination of autoantibodies against envoplakin and periplakin in paraneoplastic pemphigus.	Probst C	皮膚科
Br J Dermatol.	2009 Sep 18.	Clinical and laboratory investigations Circulating IgA and IgE autoantibodies in anti-laminin-332 mucous membrane pemphigoid.	Natsuga K	皮膚科

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	発行年月日	題名	発表者氏名	所属部門
Pathology- Research and Practice	2009.1	Clinicopathological significance of cervical adenocarcinoma associated with lobular endocervical glandular hyperplasia	Nishio S	産婦人科
J Obstet Gynecol Res	2009.6	Primary adenocarcinoma of the vagina successfully treated with neoadjuvant chemotherapy consisting of paclitaxel and carboplatin	Takemoto S	産婦人科
Br J Cancer	2009.7.28	Expression of activated signal transducer and activator of transcription-3 predicts poor prognosis in cervical squamous-cell carcinoma	Takemoto S	産婦人科
Diabetes Metab. Res. Rev	2009.7	Protective role of pigment epithelium-derived factor (PEDF) in early phase of experimental diabetic retinopathy	Yoshida Y	眼科
Eye	2009.12	Patching retinal breaks with Seprafilm in experimental rhegmatogenous retinal detachment of rabbit eyes.	Teruya K	眼科
眼科手術	2010.1	ドレープ付き開瞼器	浦野 哲	眼科
Journal of Magnetic Resonance Imaging	2010	Comparison of dynamic MRI at 3.0T and MDCT of pancreatobiliary disease:evaluation with source,MPR,CPR,and MIP images for image quality and hepatic arterial and portal venous vessel conspicuity	Masafumi Uchida	放射線医学
インターベンショナル・ラジオロジー学会雑誌	2010.1	喉頭癌, 咽頭癌に対する動注化学放射線治療	田中法瑞	放射線医学
日本放射線腫瘍学会雑誌	2010.6	心, 冠動脈への線源迷入の鑑別に64列MDCTが有用であった前立腺癌 I-125密封小線源治療の1例	渡邊祐子	放射線医学
日本口腔診断学会雑誌	2009年	特殊光による内視鏡検査を行った早期舌癌の1経験例	岩本 修	歯科口腔医療センター
日本口腔外科学会雑誌	2009年	顎口腔領域に神経症状が初発した頭蓋内腫瘍の2例	岩本 修	歯科口腔医療センター
日本集中治療医学会雑誌	2009.10.1	ドクターヘリによる病院前救急医療	坂本 照夫	高度救命救急センター
福岡県臨床外科医学会雑誌	2009.12	福岡県ドクターヘリ2,000件出勤と今後の課題	坂本 照夫	高度救命救急センター
医工学治療	2009.6	救急領域におけるPCPSの応用	宇津 秀晃	高度救命救急センター
医療薬学	2009.6	タキソテール注射液調製時における効率化の検討	堤 一貴	薬剤部
日本放射線技術学会雑誌	2010.3	Computed Tomography (CT)におけるregion of interest(RO)サイズの検討	中村 忍	画像診断センター
日本環境感染学会誌	2009	糸状菌を起炎菌とした角膜真菌症の7症例の解析	棚町 千代子	臨床検査部
日本環境感染学会誌	2009	病院内の給水・給湯水における微生物汚染調査	矢野 知美	臨床検査部
Vox Sanguinis	2009	Consecutive national surveys of ABO-incompatible blood transfusion in Japan	佐川 公嬌	臨床検査部
日本輸血細胞治療学会誌	2009	細胞治療に用いる細胞の接取、処理、保管に関する調査 -2007年度日本輸血・細胞治療学会と日本臨床衛生検査技師会による「輸血業務に関する総合的アンケート調査」および全国大学病院輸血部会議輸血副作用ワーキンググループによるアンケート調査	佐川 公嬌	臨床検査部
日本輸血細胞治療学会誌	2009	2004年から4年間の輸血関連総合アンケート調査輸血副作用に関する調査報告	佐川 公嬌	臨床検査部

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 中島 格
管理担当者氏名	診療関係 各診療科部長(別紙1) 管理関係 事務部長 龍頭 充康

	保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、 看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	各診療科の 医局資料室 病院資料室 セミアクティブカルテ室 診療情報管理室 外部倉庫	病歴資料については、カルテ・エックス線 フィルムその他とも入院・外来別に、 入院については各診療科一連番号を付番 外来についてはID番号にて整理して 診療科別分散管理を行っている。 平成15年4月1日以降に退院した患者の入院 診療記録については、診療情報管理室にて ID番号にて整理して中央管理を行っている。	
院の管理及び 運営に関する諸 記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	
	高度の医療の提供の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	病院管理課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課 及び薬剤部	
	第 一 則 号 第 一 条 に 掲 げ の 十 一 体 制 第 一 項 の 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項	医療に係る安全管理のための 指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための 委員会の開催状況	管 理 課
		医療に係る安全管理のための 職員研修の実施状況	医療安全管理部 管 理 課
		医療機関内における事故報告等の 医療に係る安全の確保を目的と した改善のための方策の状況	医療安全管理部
		専任の医療に係る安全管理を 行う者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を 行う者の配置状況	感染制御部
医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況		医療安全管理部	
当該病院内に患者からの安全管理 に係る相談に適切に応じる体制の 確保状況		医療安全管理部	

管理担当者一覧

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	相澤 久道	泌尿器科	松岡 啓
消化器内科	佐田 通夫	産婦人科	嘉村 敏治
心臓・血管内科	今泉 勉	眼科	山川 良治
腎臓内科	奥田 誠也	耳鼻咽喉科	中島 格
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	早淵 尚文
血液内科	岡村 孝	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	松石 豊次郎	高度救命救急センター	坂本 照夫
外科	白水 和雄	呼吸器病センター	相澤 久道
	青柳 成明	消化器病センター	佐田 通夫
整形外科	永田 見生	循環器病センター	青柳 成明
形成外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	重森 稔	乳腺外科・一般外科総合外来	白水 和雄
小児外科	八木 実	薬剤部	佐田 通夫
皮膚科	橋本 隆		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び 運営に関する諸 記録	規則第一 条の十一 第一項各 号及び第 九条の二 十三第一 項第一号 に掲げる 体制確保 の状況	院内感染のための指針 の策定状況	久留米大学HP 感染関連マニュアル集
		院内感染対策のための 委員会の開催状況	管理課
		従業者に対する院内感 染対策のための研修の 実施状況	管理課
		感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対 策の推進を目的とした改 善のための方策の実施 状況	管理課
		医薬品の使用に係る安 全な管理のための責任 者の配置状況	薬剤部長事務取扱
		従業者に対する医薬品 の安全使用のための研 修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のた めの業務に関する手順 書の作成及び当該手順 書に基づく業務の実施状 況	手順書・・・各部署 実施状況・・・薬剤部
		医薬品の安全使用のた めに必要となる情報の取 集その他の医薬品の安 全使用を目的とした改善 のための方策の実施状 況	手順書・・・各部署 実施状況・・・薬剤部
		医療機器の安全使用の ための責任者の配置状 況	医療機器管理責任者 坂本照夫 (臨床工学センター長)
		従業者に対する医療機 器の安全使用のための 研修の実施状況	臨床工学センター 画像診断センター 放射線治療センター
		医療機器の保守点検に 関する計画の策定及び 保守点検の実施状況	臨床工学センター 画像診断センター 放射線治療センター 核医学検査室 心臓カテーテル検査室
		医療機器の安全使用の ために必要となる情報の 収集その他の医療機器 の安全使用を目的とした 改善のための方策の実 施状況	臨床工学センター 画像診断センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体として
の管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 中島 格
閲覧担当者氏名	診療関係 各診療科部長(別紙2) 管理関係 事務部長 龍頭 充康
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	78.6%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,617 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		24,124 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,590 人
	D: 初診の患者の数		30,978 人

(注)1 「紹介率」欄は、A、B、C、の和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

閲覧担当者一覧

診療科	閲覧担当者氏名	診療科	閲覧担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	相澤 久道	泌尿器科	松岡 啓
消化器内科	佐田 通夫	産婦人科	嘉村 敏治
心臓・血管内科	今泉 勉	眼科	山川 良治
腎臓内科	奥田 誠也	耳鼻咽喉科	中島 格
内分泌代謝内科	山田 研太郎	放射線科	早淵 尚文
血液内科	岡村 孝	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	内村 直尚	麻酔科	牛島 一男
小児科	松石 豊次郎	高度救命救急センター	坂本 照夫
外科	白水 和雄	呼吸器病センター	相澤 久道
	青柳 成明	消化器病センター	佐田 通夫
整形外科	永田 見生	循環器病センター	青柳 成明
形成外科	清川 兼輔	内科総合外来	山田 研太郎
脳神経外科	重森 稔	乳腺外科・一般外科総合外来	白水 和雄
小児外科	八木 実	薬剤部	佐田 通夫
皮膚科	橋本 隆		

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に関する基本的考え方 ・ 安全管理のための委員会その他医療機関の組織に関する基本的事項 ・ 安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 他 							
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12回						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理対策委員会 セーフティコントロールチーム委員会 インシデント小委員会 (医薬品安全管理小委員会、医療機器安全管理小委員会、抗腫瘍薬物療法プロトコル認証委員会 事故調査委員会) 							
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 回						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <table border="0" style="margin-left: 20px; width: 100%;"> <tr> <td>TQM講習会(安全、感染)</td> <td>1年12回</td> </tr> <tr> <td>医療機器安全管理研修</td> <td>1年 7回</td> </tr> <tr> <td>医薬品安全管理研修</td> <td>1年1～2回</td> </tr> </table> 		TQM講習会(安全、感染)	1年12回	医療機器安全管理研修	1年 7回	医薬品安全管理研修	1年1～2回
TQM講習会(安全、感染)	1年12回						
医療機器安全管理研修	1年 7回						
医薬品安全管理研修	1年1～2回						
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容: <ul style="list-style-type: none"> マニュアル・手順実施状況の調査、委員会巡回確認 委員会での再発防止策の策定 職員に対する研修(全体研修、訪問研修) 							
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)(1名)・無						
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)(1名)・無						
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員: 専任 (1)名 兼任 (1)名 ・ 活動の主な内容: <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理対策の推進 ・ 医療安全各委員会企画・運営 							
⑧ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無						

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・指針の主な内容： ・院内感染対策に関する基本的な考え方 ・委員会等の組織に関する基本的事項 ・職員研修に関する基本方針 ・院内感染発生状況の報告に関する基本方針 ・院内感染発生時対応に関する基本指針 ・指針の閲覧に関する基本方針 ・その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
・活動の主な内容： ・VRE月例報告について ・久留米大学インфекションコントロールチームの活動報告	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 57回
・研修の主な内容： ・久留米大学におけるインフルエンザの対応 ・MRSAなどの耐性菌感染症について ・抗菌薬の適正使用について ・防護具の適切な着脱について ・標準予防策、手洗いについて	2009年39回 2010年8月現在18回
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備： ・その他の改善のための方策の主な内容： ・久留米大学インフェクションコントロールチームの月3～4回の巡回による感染対策の評価と改善策を実施 ・リンクナース会議の際に、「針刺し報告件数」や院内の感染発生状況・対策などについて報告	

(様式第13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・研修の主な内容： ・糖尿病とインスリン製剤について ・「消毒薬の疑問を一挙解決！」～消毒薬の使用上のポイント	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 (有・無) ・業務の主な内容： ・病棟、外来の定数配置薬の数や有効期限の定期的チェック ・麻薬、向精神薬の管理状況 ・手順書遵守状況の確認(ダブルチェック、指示出し・指示受け等)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・インシデントレポートより対応が必要な事項の抽出をし、研修会などへ繋げる。 ・「注射薬投与時の注意」を改訂配付し、オーダーリング上にも掲示 ・医薬品情報の「警告・禁忌」「副作用(院内)」をオーダーリング上に掲示 ・インスリン製剤一覧を更新配付し、オーダーリング上にも掲示 ・注射薬の毒薬・ハイリスク薬一覧表を改訂配付し、オーダーリング上にも掲示 ・抗リウマチ剤(メソトレキサート)の過剰投与に伴う骨髄抑制について通達し、周知徹底を図る ・間違いやすい医薬品(内服・外用薬、注射薬)のリストを更新配付し、オーダーリング上にも掲示 ・「お薬手帳をお持ちください」というパンフレットを作成し、入院案内とともに配付。 ・薬剤管理指導業務で得たアレルギー情報等を処方せんへ反映	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の使用に係る安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 28回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・人工呼吸器：安全な使用のため注意事項、構造、アラーム及び対処法・閉鎖式保育器：使用前の点検、使用中の安全管理、注意事項、その他・血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラームの処理、その他・人工心肺装置、補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について・除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について・MRIの磁場体験・線量計の取扱い・薬事法についての研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 (有・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動器については、年に1回の定期点検を行っている。その他、CE担当部署の電気メス、麻酔器、モニター、吸引器、シリンジポンプ、輸液ポンプなども定期点検を行っている。・日常点検については、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、閉鎖式保育器、除細動装置、AEDについて行っている。・人工呼吸器の始業点検についても記録を残すようにした。・始業点検、メーカーによる定期点検・技師によるX線出力、管電圧測定、安全点検の実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・医療機器安全情報については多方面より情報収集を行い、より重要な情報については、医療機器管理小委員会、医療安全管理対策委員会に報告、また、各病棟・外来・関係講座への周知を行っている。・情報の掲示・安全検査手引書の作成・会議を通して情報の周知	